

① 国民宿舎かじか荘
☎93-3420

いわなのひつまぶし・ちたけうどん
はちみつソフトもおすすめ
日帰り温泉OK

無休(メンテナンス休館有)

② かめむら別館
☎93-2218
(要予約)
日本料理からジビエまで
各種ご要望にお応じます。



③ 藤谷商店
☎93-2397
日光水物語「山椒うどん」
しこしこおいしい
皇海麺

無休





④ レストハウス足尾
銅山観光内
おみやげ

⑤ ヒロ二世
☎93-4340
銅山観光レストハウス内
ラーメン・
オムライス

⑥ さんしょう家
☎93-2333
山椒の唐揚げ御膳・
山椒のシフォン等
ご賞味ください
4月～11月
土・日・祝営業

⑦ 青柳
☎93-2175
おみやげに
「足字銭最中」を
どうぞ
(休) 火・営業9時～17時 

B 川本食堂
☎93-2029
明治時代から続く
うなぎや
とり丼もおいしい
不定休

⑨ **植佐**
☎93-2043
団体ランチ OK
法事・宴会に

(休) 水

10 くわばら
☎93-2645
昔からの
駄菓子屋さん
覗いてみませんか

① **カサブランカ**
☎93-2767
子供服から大人服も
扱う珈琲喫茶

(休) 日

12 こけし
☎93-2264
気さくな女将
しーちゃんの
家庭料理
無休 営業17時～


18 **ますや**
☎93-2308
ほかほかコロッケが
名物。
メンチもおいしい
(休日

14 安塚
☎93-2256
国産小豆と黒糖の
「あんこ玉」は
いかが？

休 火



15 食事処ないう
☎93-2455
ソースかつ丼と
野菜のためが大人気

休 木

4 れんげいじ 蓮慶寺

ここには立派な五輪塔があり、江戸幕府の山先案内人として派遣された吉田太郎右衛門春安のお墓です。また、大鳥居は、銅山の隆盛を願って祀られた簀子橋山神社のもので、護岸工事の際、渋川の川岸にあったものを引き上げて移設されたものです。

7 足尾駅

大正元年(1912)年に桐生足尾間が開通し、足尾銅山の物流拠点として重要な駅になりました。

昭和30(1955)年代以降は、自焙製鍊法や脱硫装置の導入にともない硫酸輸送の基地になりました。

昭和63(1988)年貨物線廃止。平成元(1989)年に第3セクターわたらせ渓谷鐵道になりました。(平成21(2009)年に国の登録有形文化財に登録)

まとう
⑤ 間藤水力発電所跡

明治23（1890）年12月に完成したドイツ・ジーメンス社の技術を導入した発電所です。当時としては240kWの出力を誇る日本最大の規模でした。

この電力は立坑や排水、そして一部は電灯用に利用されました。

4 上の平

この地区もかつて足尾銅山の社宅でした。

明治30（1897）年、鉱毒予防工事命令が出され、町民総出で工事を期間内に完成させました。その苦勞をねぎらうため古河はこの地に会場を設け町民を招き園遊会を開きました。その時この地を上の平と名付け、後に住宅地になりました。

③ 下の平社宅跡

現在は木型倉庫として使われていますが、昔は銅山に働く人達の社宅で標準的な間取りは6・6・4.5畳、外便所、共同水場そして共同浴場でした。

なお、閉山（昭和48年）以前の昭和42（1967）年にはここに21世帯79人が暮らしていました。

ほうそうじ
6 宝増寺
このお寺は延暦7（788）年に創立された日光山輪王寺を本寺とする天台宗のお寺です。
境内には足尾銅山草創期に活躍した第4代鉱長木村長兵衛のお墓があります。
また足尾の地名にまつわる勝道上人作と伝えられている木彫りの波之利大黒天があります。

さんようかい
8 三養会
明治 39 (1906) 年に、
銅山で働く人達のためにつ
くられた生協で「購読組」
本山三養会」として足尾銅
本山の地に発足しました。
名前の由来は「安分以養
福」「寛胃以養氣」「省費以
養財」の「福・氣・財」の
三つを養うことから「三養
会」とつけられました。

⑤ 足尾キリスト教会

イギリスの鉱山王グリン・ビビアンは世界各地の首位鉱山地に教会を建ててことを言葉に画。日本では足尾が選ばれました。明治41（1908）年に贈られた建設資金2,500円（2014）年に国の登録有形文化財に登録）

2 トロ道

トロ道とは昔トロッコ（軽便馬車鉄道）が行き来していた道です。銅山で使う大量の物資を運搬するため線路上の台車を馬で引く軽便馬車鉄道網を明治23（1890）〜25年にかけて町内等に整備をしました。
その延長は84kmにもなりました。

① 足尾銅山観光(通洞坑)

この施設は昭和55(1980)年に廃坑を利用した観光施設として生まれかわりました。

通洞坑は明治18(1885)年に開坑され、有木(本山)坑、小滝坑を結び足尾銅山三大主坑口の中点となるものです。

足尾銅山の坑道の総延長は1,234kmで東京・博多間に匹敵する長さです。(平成20年に国指定史跡に指定)

① 研究課跡

足尾銅山から掘り出される鉱石の分析などを主に行っていました。その他化学分析などもなされ、排煙から微粒金属を除去する電気集じん機の試験が大正8（1919）年に実用化されました。

2 古河キャステック

この会社の前身は、鉾山機械の保守と修理を行う足尾銅山工作課です。

明治34（1901）年頃には土木・機械・電気
の三部門を担当した花形職場でした。大正3
（1914）年、足尾式三番型削岩機といわれる日
本人の体格に合わせた手持式小型の国産第一号
機をつくりました。

9 古河掛水倶楽部
明治32（1899）年に建てられ、洋折衷の古河の迎賓館で、鹿鳴館・帝国美術館を設計したジョサイフ・ペンドル氏の影響を強く受けている（平成18（2006）年国登録有形文化財に登録）

★ 足尾のタクシー：足尾観光タクシー (93-2222)

15 食事処ないとう
☎93-2455
ソースかつ丼と
野菜いためが大人気
(休)木

16 栄山 (中華)
☎93-3866
スーラータンメンは
くせになる味
(休)木

ビューポイント

紅葉
藤の

ツツジ

魚

 **足尾の四季** 足尾の代表的な歌です…

- 1 春晴千里水清く 霞とまごう桜花 はるかなわ たる鮎の渡良瀬や
2 夏庚申の滝の音 緑滴る満山に 雲紅の夕日影
3 薄戦く山の峰 脱硫塔の影黒く 月中天に秋深し おのの
4 男体風吹く荒れて 白皚く おしろく の備前橋 幌馬車急ぐ暮の町 がしがい



三養会

昔は、古河の従業員だけが利用できました。従業員には「通帳」が渡され、それを持って買物をし、精算は後日、給料からの天引きでした。(現代のクレジットカード方式)ですから、足尾では銅山に働く人はお金がなくても1ヶ月は生活することができたのです。